

上庄をよくするつどい

1 基本データ

- 地区名 上庄地区
- 人口 約4,200人
- 世帯数 約1,100世帯
- 面積 28,471㎡
- 地区の沿革

大野市は、昭和27年に2町6カ村が合併し市制を施行したが、6カ村の中の1つ旧上庄村が現在、上庄地区と言われている。

当地区は、32の集落（行政区）で構成されていて、地勢的には市街地南部に位置し、日本百名山の1つ荒島岳のふもとで、東西約6km、南北約12kmほどの広さを有している。地域は、一級河川の真名川と清滝川が作り出した扇状地形で、稲作とサトイモの生産が盛んな農村地区となっている。

○ 実施主体

上庄をよくするつどい

地区のまちづくり組織「上庄をよくするつどい」は、地区内の全世帯のほか、関係機関や関係団体が構成されている。その運営については、各集落から選出された運営委員があたり、総務部、環境整備部、教育福祉部の3つの専門部に分かれ、それぞれの部門の事業を行っている。

また毎年このよくするつどいを核として実行委員会を構築し、地区の夏祭りを8月の第1土曜に実施している。夏祭りは地区住民による手づくりで、地区公民館の駐車場を利用して各種の団体やサークルなどが、日ごろの練習成果を屋外ステージで発表、またおでんや焼きそば、焼き鳥、バザーなどの出店もあり、地区民からは夏の恒例イベントとしての楽しみの一つに挙げられている。

2 現状と課題

上庄地区では、地区を挙げて環境美化や里山等における広葉樹植栽など、環境保全のための活動に取り組んでいる。

環境保全の取り組みでは、毎年、初夏のころに、上庄をよくするつどいや女性の会（婦人会）会員などで地区内の各集落の環境美化の取り組み状況を巡回審査し、秋には各集落の花壇づくりやごみ集積所などの環境美化取り組みについてコンクールを行っている。

審査とコンクールでは、花壇づくりの工夫や管理状況、ごみ集積場の清掃、分別状況などに視点を置いて行っている。



写真1 初夏のころの環境巡視会

また地区では旧上庄村から受け継いだ広大な山林を有していて、地区の生産森林組合組織である「上庄共栄会」が、毎年、造林事業を行っている。

造林事業では、植栽や間伐、下草刈など杉の育林が主体であるが、近年、地球温暖化対策など森林の持つ公益的機能が重要視されている中、水源地の山林を有する上庄地区として地区を挙げて広葉樹の育林にも力を入れている。毎年初夏のころには、所有する山林にドングリ苗などを植樹している。

このほかにも地域にある圃場跡地（名称：エコフィールド）を利用して、小学児童にクルミ

の種植え付け、また中学生には松の植樹なども協力してもらっている。



写真2 児童によるクルミの種植え

これらの環境美化・保全活動については、よくするつどいでは、各集落での活動や取り組みについての啓発を主としており、地区を挙げての一斉的な協働活動は山林における広葉樹の植樹で大人だけの参加である。このため、地域の環境美化に対する意識を今後も継続的に保つためにも、世代間交流をも目的にして、これからの上庄を担う若い世代も含めた環境美化の協働活動が望まれる。

また祭りについては、実施環境（ハード的）が十分ではなく、イベント充実のための整備が望まれる。特に、祭りの雰囲気をかもし出す提灯や協力団体の出店には電気が不可欠であるが、会場となる地区公民館前駐車場では十分な容量が確保できていない。時に、盆踊りの最中に電気が落ちたりして、せっかく盛り上がった雰囲気が壊れたりしている。

また真夏の最中に、電気容量不足のため、飲み物などは氷を使って冷やしているが、十分な電力量が確保できれば、冷蔵庫や冷凍庫の使用などもでき、出店メニューが増えるなど祭りの彩りにもぎやかになることが期待される。そして、各団体のステージ発表にも照明などを使用でき一段と祭りは賑やかになるであろう。

3 事業の内容

① 地域環境整備事業

上庄地区内には小学校、中学校がそれぞれ1校ずつあり、生徒たちは中学校を卒業すると同時に上庄校同窓会員となる。現在会員の数は、1万人を超えている。

中学校敷地内の北東側には古くから赤松林があり、夏の暑いころなどには、生徒やPTA活動などでの憩いの場として利用されている。

以前に、中学校では校舎建て替え時に学校敷地内の東側にあるプールを取り壊した。しかしながら松林に隣接するプール跡地は市道沿いにあるが、コンクリート片や石ころなどが残っているため、近辺の景観が損なわれている。



写真3 景観を損ねているプール跡地

このため、上庄をよくするつどい会員をはじめとして、上庄校同窓会員、中学校生徒で、大人と子どもが、当該地を整備し、松苗を植樹するという協働作業に当たって、地域景観形成を図る。

近年、松くい虫被害により、アカマツの立ち枯れが全国に広がっているが、松苗には抵抗性のあるものを植えることとする。



写真4 松苗の協働作業による植樹

② 夏まつりグレードアップ条件整備事業

夏まつり事業においては、現在公民館や隣接するJA倉庫のコンセント電源を使用しており、電気容量的に十分ではなく、たびたびテント内の照明が落ちるなど、出店者や来場者から改善を求められており、イベント規模を拡充しようにもハード的に制限がある。

このため、その条件整備を行い、イベントメニューの充実を図るなどして祭り規模をグ

レードアップさせる。

公民館施設に電気を供給している電源は公民館南側の屋外にあるが、当電源は公民館供給以外にも余裕ある。この元電源を利用して、夏祭り会場となる公民館北側駐車場の東側と西側に1カ所ずつイベント用常設電源（配電盤）を設置する。

また既設倉庫に投光器を設置し、祭り時間の延長や来場者・イベント従事者、祭り後の片付け時の安全を確保する。

・電源設備設置

東ルート

既設の倉庫内に配電盤を取り付ける。

元電源～芝生地下埋設、公民館側壁取り付け、アスファルト埋設、倉庫内取り付け
西ルート

既設の屋外看板に配電盤を取り付ける。

元電源～芝生地下埋設、アスファルト埋設、看板裏取り付け

・投光器設置

ハロゲン投光器 3器



写真5 電源線の埋設工事



写真6 看板に取り付けられた配電盤

4 事業の成果

① 地域環境整備事業

松苗の植樹活動により、当該地の環境美化が図られるとともに、環境美化に対する個々の意識向上につながった。

また大人と子どもが協働作業をすることにより、世代間の交流や郷土愛の醸成が図られた。



写真7 事業地に建てられた環境美化を啓発する標柱

② 夏まつりグレードアップ条件整備事業

電源設置事業は、残念ながら事業の完成が夏まつり後となったため、今年の夏まつりで活用することはできなかった。

来年度以降は、夏まつりのイベント内容等グレードアップについて期待したい。



写真8 今年の夏まつり

5 今後の展望

① 地域環境整備事業

整備地は、今後、中学生や地域住民が協働して維持管理を行うとともに、地域の憩いの場として活用することとし、地域コミュニティの醸成がますます図られることが期待される。

また子どもから大人までの協働による景観形成事業の継続事業として、近隣のエコフィールドを利用して、継続して小学生によるクルミ等の種植えや苗木育成。また中学生や大人の協働による、上庄共栄会が所有する林地において、エコフィールドで育ったクルミ苗木の植樹活動につなげ、地域の環境保全のみならず、水源地である上庄地区からの地球環境保全活動の啓発などの発信につなげていくこととしたい。

② 夏まつりグレードアップ条件整備事業

「上庄夏まつり」は今年で21回目を数えたが、当事業により電源容量が確保等できたことにより、次年度からのイベント内容等を以下のように充実させていくこととしたい。

① 出店協力者団体の増によるグレードアップ

会場的に数に限度はあるが、出店協力者増による地域力の活性化と賑わいづくり。

② 出店メニューの増によるグレードアップ

冷凍庫や冷蔵庫、ホットプレートなどの電気器具使用による多彩なメニュー展開ができることから、子どもから大人までが楽しむことができる祭りのグレードアップ。

③ 祭り規模の拡大による来場者の増

④ 投光器設置によるグレードアップ

投光器を設置することにより、祭り時間の延長や来場者・イベント従事者の安全が確保できる

なお、上記夏まつりイベントのグレードアップを図るほかにも、当該地において上庄地区の特産品であるサトイモを活用したイベント開催など、屋外電気設備を活用した地域の賑わいづくりにつとめていくことを指標とした。